

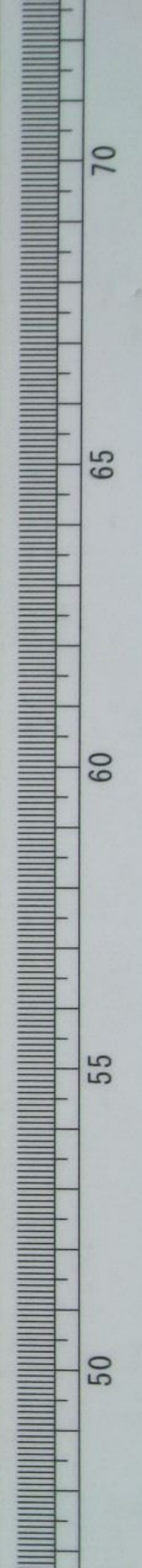


增補
書

別蒙圖彙大成
八

~~P
279
8~~

逍遙文庫
文庫 6
27
8



頭書增補訓蒙圖彙卷之十七

菜蔬

此部ふいそあくの野菜
苑蔬のをぐひとあらむ



○燕菁の食と消し氣と
は嗽やひつひふくへ
中と通しとくそんそんや
カクシ
○菜菔の氣と食と消
し痰咳と治し中とわく
め大小便と利と
○芥の頭中の風熱とさう
酒後の熱とさう一大小
腸と利し血脈とゆると益
○葱の汗と後し風と去

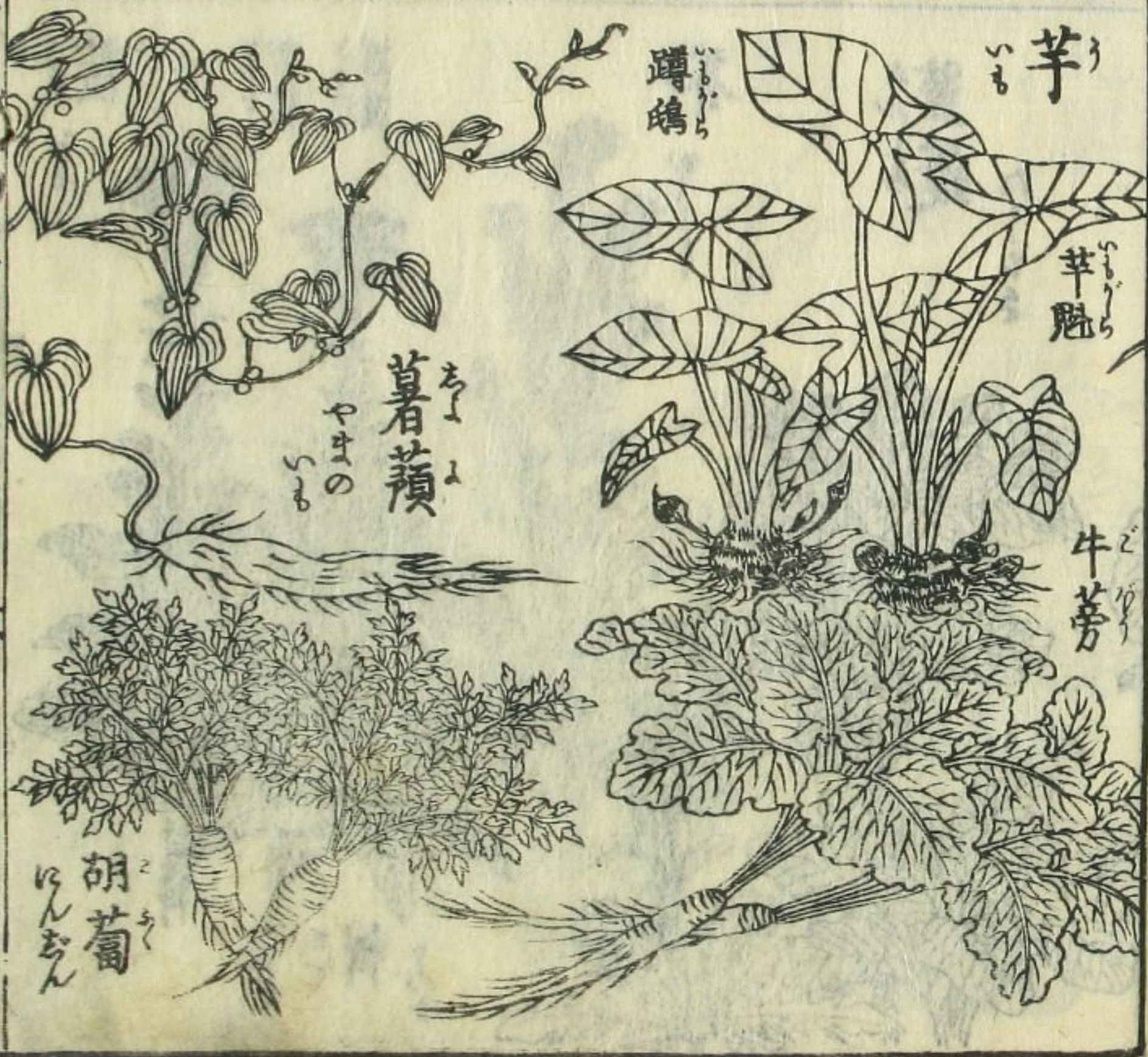


頭書增補訓蒙圖彙卷之十七

小べんとほじ魚肉の毒
 ところ〜中脈わ〜め
 から瓜〜
 ○葦の胃熱とのぞれ中と
 わ〜め虚と〜めひ〜
 の〜めひ〜
 ○蒜の脾胃小飲〜中と
 わ〜めろ〜らん腹中を
 の〜めひ〜
 ○薤の水氣と〜中とわ
 た〜め不足と〜めひ〜
 き〜めろ〜腹に〜氣瓜
 へ〜めひ〜
 ○波菘の酒毒を解〜
 胸とひ〜れ氣と〜めひ〜
 る〜めひ〜

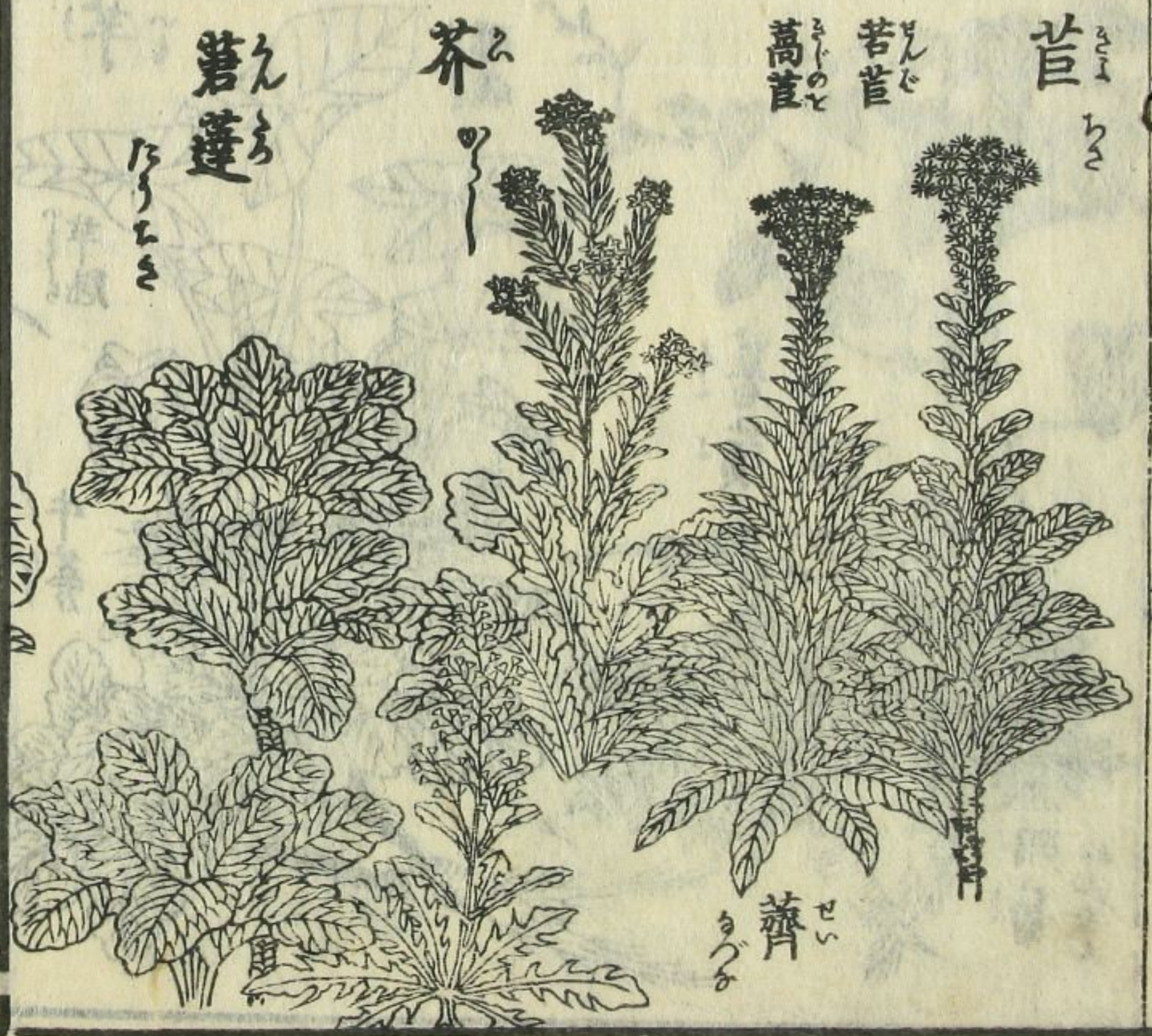


○胡葱の中とわ〜めひ〜
 と〜めひ〜食瓜清〜出
 と〜めひ〜れと活を
 ○芋の腸胃とゆ〜肌と
 みら熱と〜滑と〜胃
 と〜めひ〜宿血と中と
 ○芋の虚と〜めひ〜
 氣力と〜法と〜
 腰の〜と〜腹と〜
 ○牛房の中風との〜脚
 氣風〜せんま〜は西目
 と〜めひ〜
 ○胡葡萄の氣瓜〜中と
 め〜めひ〜腸胃と和〜入
 腹とや〜めひ〜瓜〜入
 に益ありて損か〜



本草綱目卷之二十一

○苜蓿の胸膈とひくさ筋
 骨とくさくさ目尻のくさ
 くさくさ乳汁とくさくさ
 くさくさ
 ○芥の腎経の邪氣とど
 きくさくさせんと治し胃
 ひくさ膈と利し九竅と
 利と
 ○薺の肝と利し中とヤ
 りけ胃瓜まきくさくさ
 利と
 ○蒼朮はくさくさくさくさ
 くさくさ胸のくさくさくさ
 きくさ熱と解と
 ○天蓼は中風口ゆかきくさ
 さくさくさ女子の虚勞と治



○落のくさくさくさくさ
 くさくさくさくさくさ
 款をくさくさくさくさくさ
 くさくさくさくさくさ
 ○薺荷の毒くさくさくさ
 蛇毒と解とくさくさくさ
 脚に利わくさ
 ○苧のくさくさくさくさ
 のくさくさくさくさくさ
 と利し瘰癧と治と
 ○獨活は痛風と治し中風
 湿冷逆気皮膚のくさくさ
 足ひくさくさくさ
 ○瓢の脹と消し虫とくさ
 くさくさ下血と治し血崩
 赤白の帶下と治と



○瓢の中の水を瓜利しん
 と治し水乃瓜利しん
 熱と心肺とを瓜利しん
 ○瓜を煮て小便とつじ
 湯と熱とのを瓜利しん
 腸とゆるくと羊角瓜
 ○冬瓜の小便と利し湯
 とのを氣とすしひのつじ
 とのを熱とす
 ○草の氣瓜すし風と治
 し血とやぶる地ふ生じ
 と菌とすし本に生じ
 曹とす
 ○胡瓜の熱とを瓜利し
 湯瓜解し瓜と利し
 小児ふいし

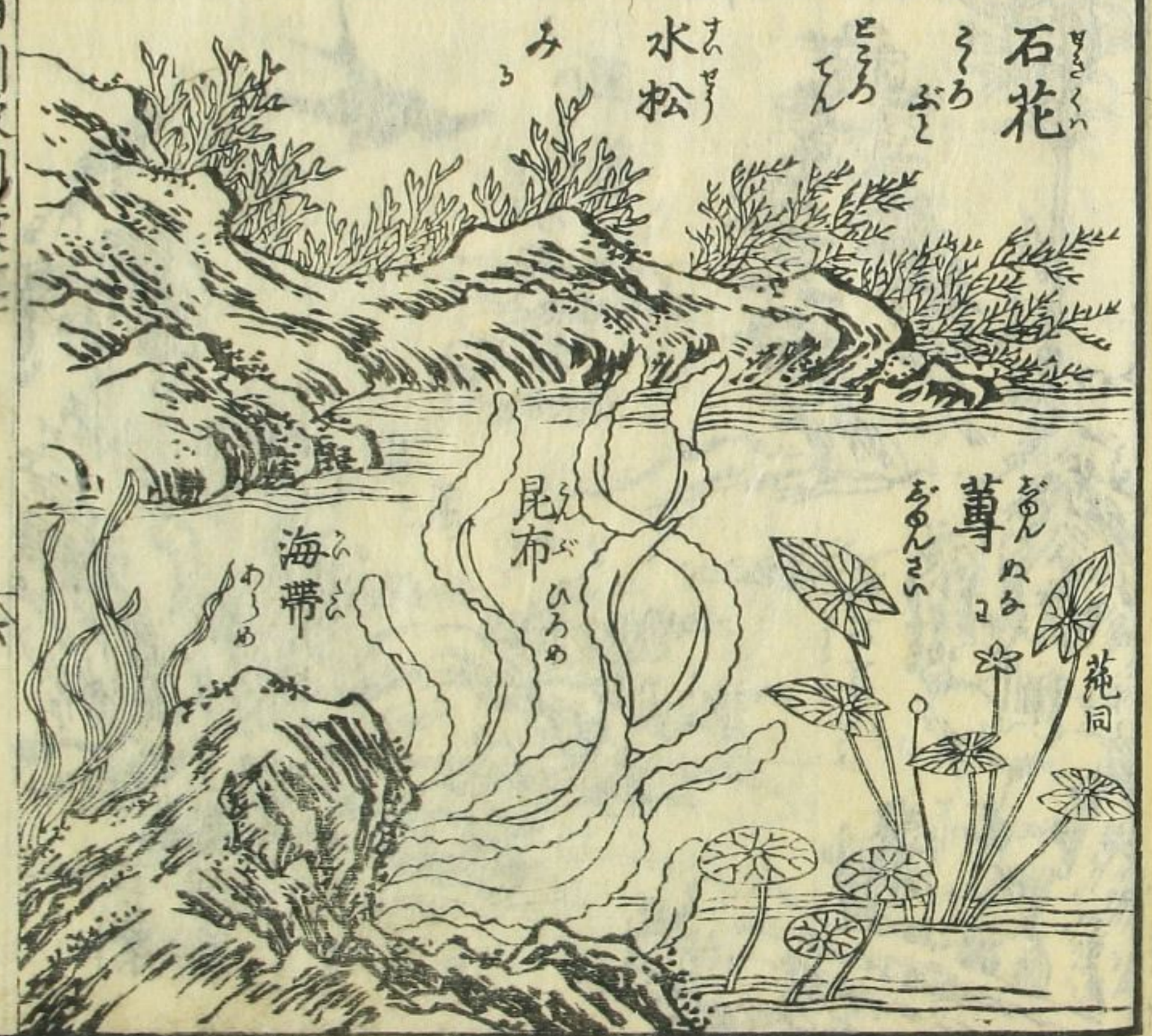


○醬瓜の水乃瓜利し中
 と治し瓜利しん
 ○絲瓜の皮とりて湯と
 とふと腫のわり瓜とす
 湯と熱とのを瓜利しん
 ○山葵の皮とりて湯と
 と治し食とす瓜利し
 を利し瘡とひし
 ○茄の血とさんとのを瓜
 との腫と消し腸とゆる
 くし瘡とひし銀茄とす
 カとびかり
 ○雞腸の毒腫と治し
 人ふ益わり
 ○荊の宿血とやぶる胃と



治一帯下とに
 ○尊へ腸胃とあり氣依
 〇辨へうをのをこかり茶
 〇麋へうのかさこかり靴
 〇鹿角へ風氣とて小
 〇石花へ上焦の浮熱とて
 〇昆布へ水乃瓜治一而

〇紫菜へ煩熱とてとて
 〇燕窩へ虚孤とてか
 〇石耳へ目分とて
 〇海帶へ風瓜とて水とて
 〇女のおすいと治一さん
 〇懸癩とて治一とて
 〇水松へ水腫のやすいと治
 〇燕窩へ虚孤とてか
 〇石耳へ目分とて
 〇海帶へ風瓜とて水とて
 〇女のおすいと治一さん
 〇懸癩とて治一とて
 〇水松へ水腫のやすいと治



くろくし
 ○苔苔の乾苔
 ともゆひとこ
 ろし痔合らん
 づと治を
 ○本耳の氣
 し死とわく
 ころとつば
 一痔と治を
 ○華解いそり
 あり黄解と
 つみ野老と
 味はよく疝
 氣のじと
 とあり



頭書增補訓蒙圖彙卷之十八

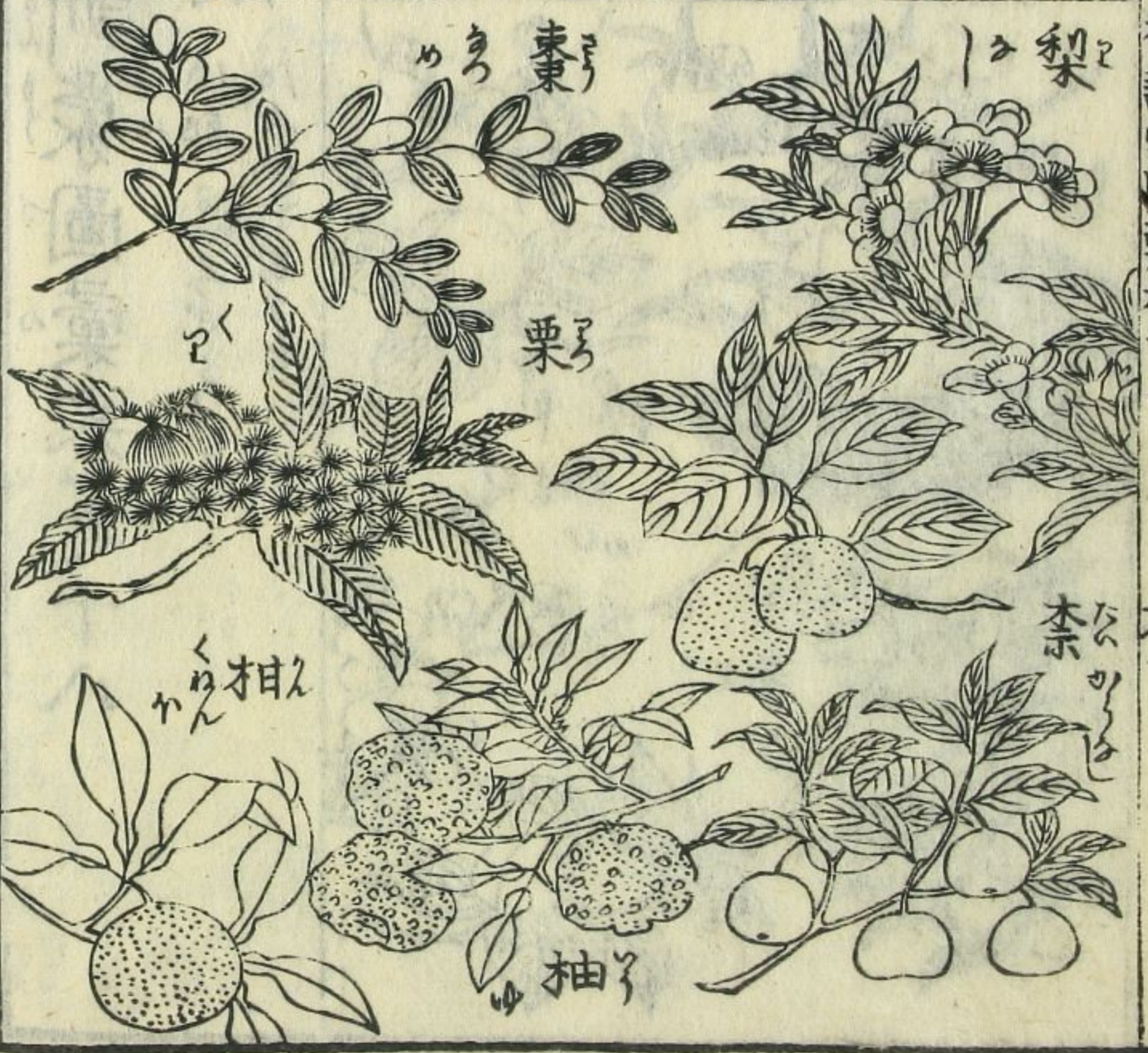
果蔬

い部ふんごもの
たふいとち

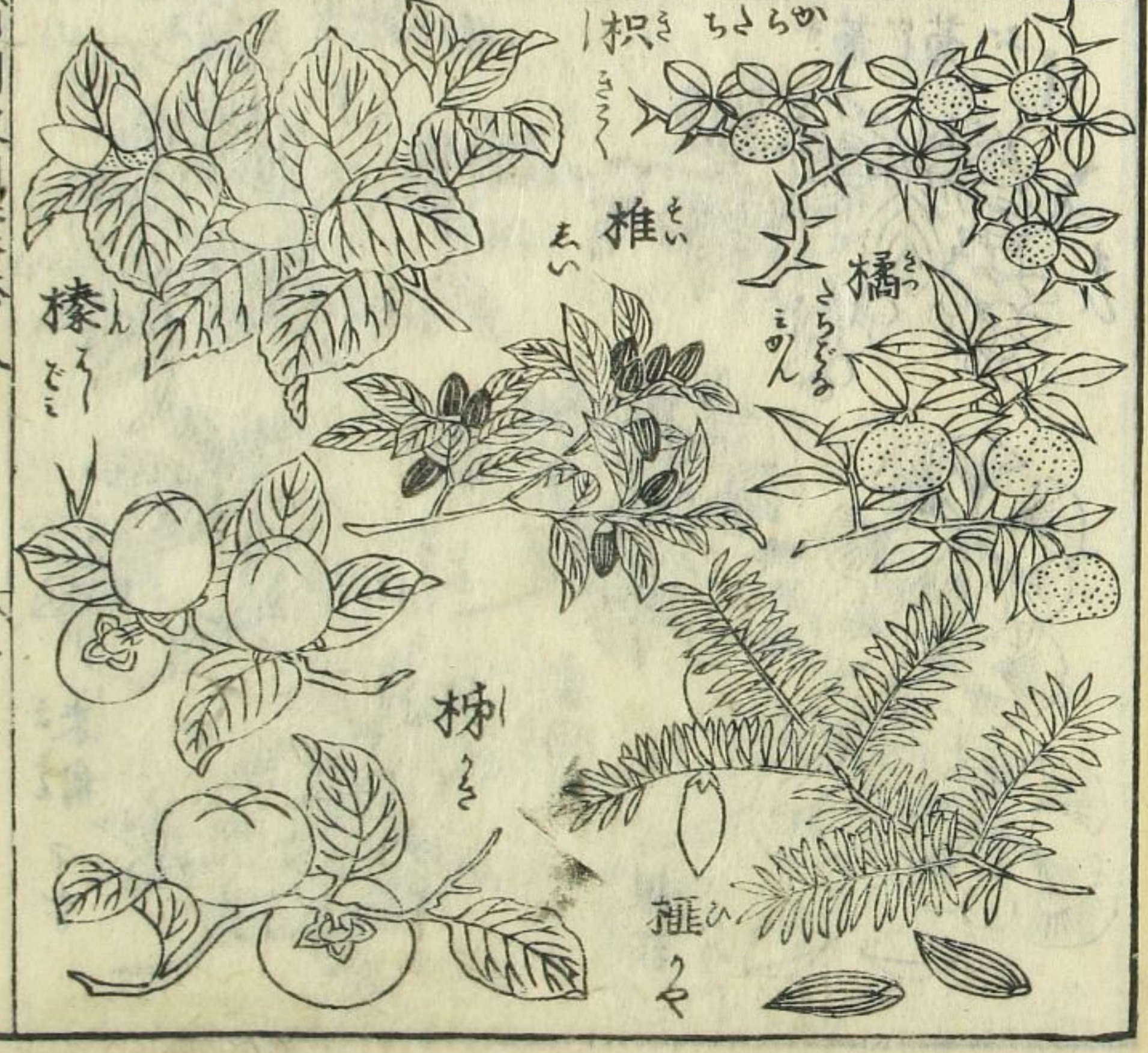
○杏のりさうとて
 湯瓜とあ冷熱の毒と
 仁のせんと
 ○梅の生るるる歯と
 どの月瓜わさうふ
 梅の瘰癧のそく
 ○桃の生るるは仁の瘰
 血瓜とん大便とつ
 ○李の芳熱とるる肝病
 食とて来々李と
 実からん来々李と



○梨の熱嗽とやれ湯と
 肺と清し火氣を
 ○柿の中焦りくの不
 足の氣を補ひ脾と和
 氣を清し火氣を
 ○棗の脾胃とやれ汁
 液とせし心腹の邪氣と
 さらし心肺とさらし
 ○栗の氣を清し腸胃
 のろし腎氣を補ひ腰脚
 のふる瓜落と茅栗 杓子
 柿の食と清し酒毒と解
 腸胃の悪氣とさらし婦
 人孕て食とあつては洗と
 洗と



○柑の腸胃のうられ熱毒と
 利し微ふ湯とやれ小便と利
 ○松の大便とけしむひのつ
 ととと痰と清し脾胃よ
 りさりのへれとげり
 ○橘の消渴とやれ胃氣の
 膈中のふさわりとぞく
 ○椎の寸白虫と治し食と消
 し目氣のうられ熱嗽白濁
 とやれ痔と治と
 ○柿の酒と利し酒毒と解
 胃中の熱と
 ○椎の腸胃とやれし人と
 て肥とやれし人と
 ○柿の氣力とやれ腸胃と美



しんをよそとやみし思

ひん

○栳榴の喉のくもくと活三戸

虫と刺を味ひ酸其の二品有

○来禽の氣とくく一瘕と活

一霍乱腹の痛消渴と活

○葡萄の痲病をひくと活

腸間の水とのぞく久しく

くくへ身とくらくと

○金柑の氣と下胸とくく

くく一渴(瓜)を二日酔と活

○銀杏の生はくく酒と解

瘕とくく虫とくくを熱

くく小便とくく

○枇杷の吐逆とくく上焦の熱

とくくさくく氣と肺氣と利

○枳椇の又腸とくく大小

便と利酒毒と解と

○楊梅の氣とくく腸胃と

き渴瓜やれ瘕とくくと

とくく食瓜消と

○荔枝の湯瓜やれ瘕と活

爛と活と頭をれと活と

○莓の氣とくく身瓜瘕と虚と

補ひ男は活(女子)もくく

○佛手柑の氣瓜く瘕

水とのぞく酒ふ者てのめ

瘕咳と活と

○胡桃の肌とくく髪とくく

多食の小便と利と

来禽



栳榴

金柑

盧橘同



葡萄

鴨脚樹

銀杏



枇杷

楊梅

莓

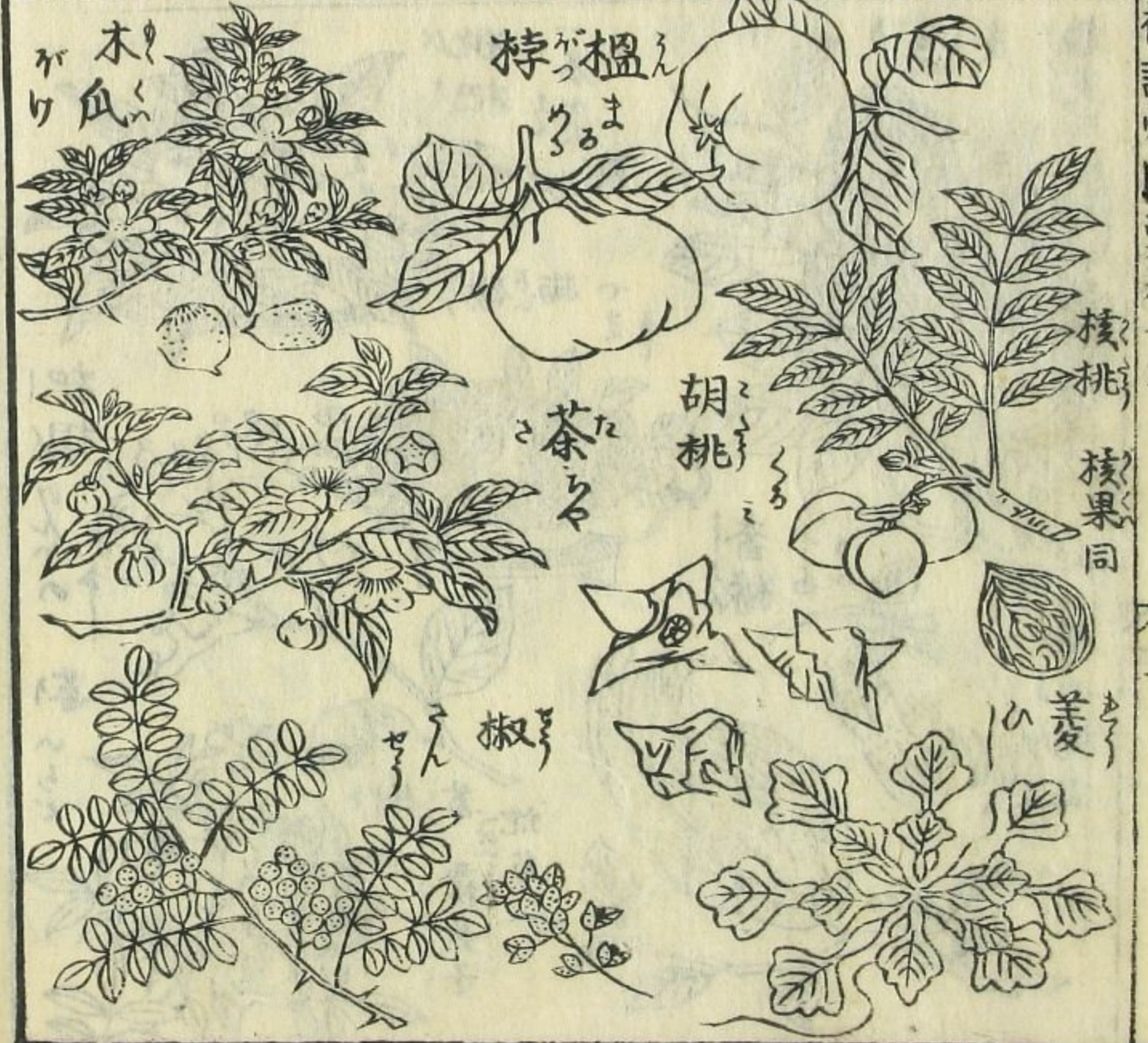


荔枝

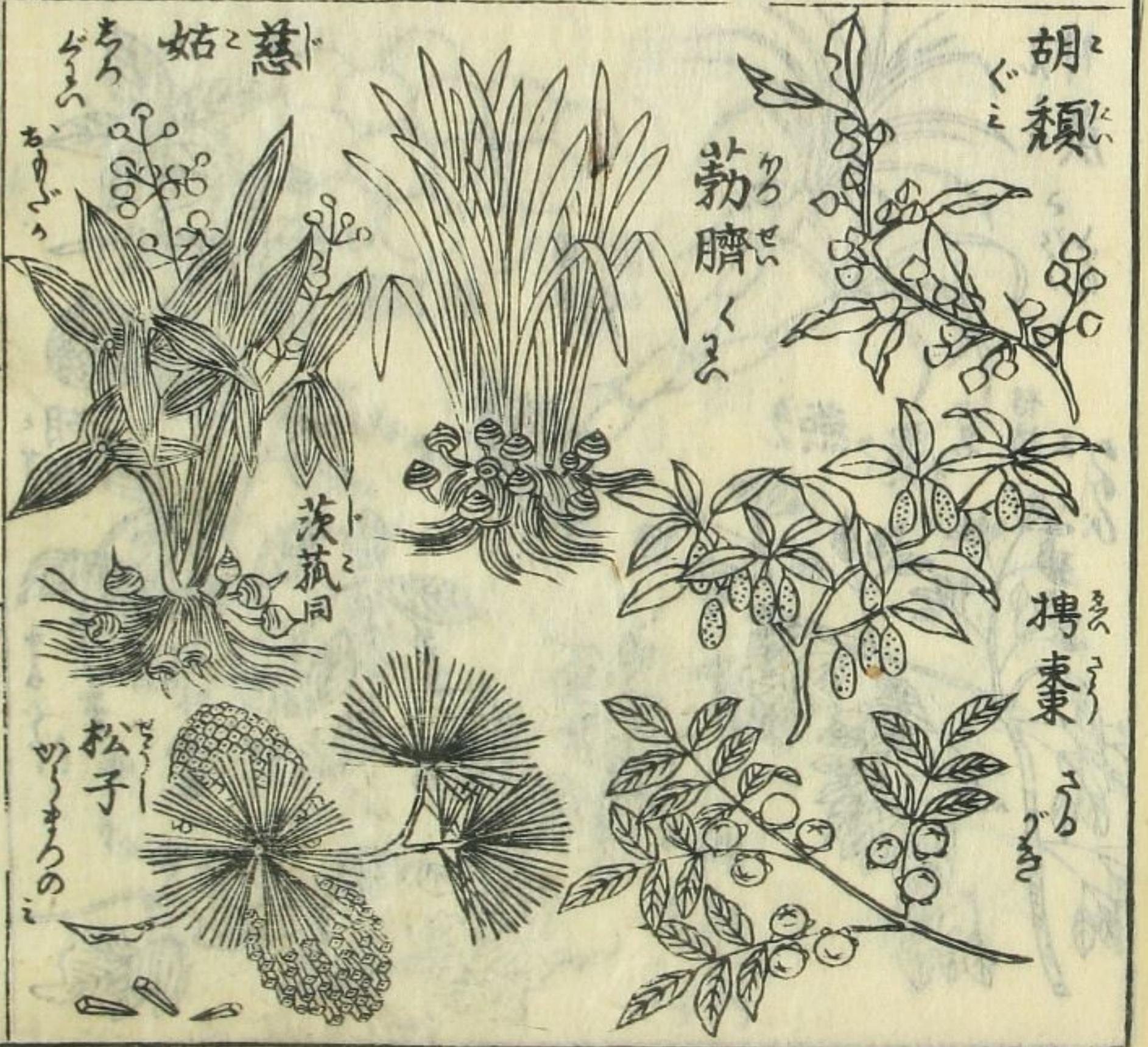
佛手柑

佛手柑同

どのぞえ水浮と治し酒
 氣と散と
 ○木瓜の脚氣筋ひきつる
 ちんらんと治す
 ○菱の中と安し入臍と補ひ
 酒毒と解し湯なやれ丹石
 ごとと解と
 ○茶の小便と利し痰熱
 ころと湯とやれ福むりそくか
 く食と消し目とぬるるを
 ○椒の風邪の氣吹流の中
 とわくわく女の汗水と通と
 ○胡頹の病と治と治と寒
 桃の病小用ゆへうと
 ○荔枝の風毒と消耳目
 明し胃とひく腸胃とわ



血痢と治るる
 ○慈姑の産後ふひひとせり
 死せし難産ありありと治
 ○栲素の心と志つら桃ととら
 消渴ととら久しく腹ととら
 款及ととら久しく
 ○松子の諸風骨痛頭痛
 うりうりといふに
 ○龍眼の胃とひく脾とほ
 虚と補ひ智瓜ととら
 腹ととら志つら身ととら
 うりて老と
 ○耳蕨のさたりの木あり
 脾胃ととら
 ○胡椒の中とわくわく去
 腹痛ととら胃と虚ととら



○砂糖さとう

心肺しんぷいと

大小腸たうせうの

熱あつと

酒毒しゆどくと解げと

○冰糖ひょうとう

心腹しんぷくの熱あつと

月瓜げつかのくわ

心こゝろと

糖とう氷ひょう



糖とう沙しゃ



糖とう紫むらさき



核かく

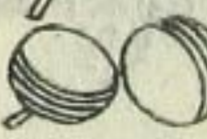
これ



菜さい



仁にん



頭書增補訓蒙圖彙卷之十九

樹竹じゆちく

此部こゝろにいるは本竹ほんちくのく瓜かと

○松しょうのく久ひさしく服くわと

まま身み瓜か種くわくく

て老かひとく心こゝろのく

とくのく五ご葉はと俗ぞく

に唐松たうしょうとく

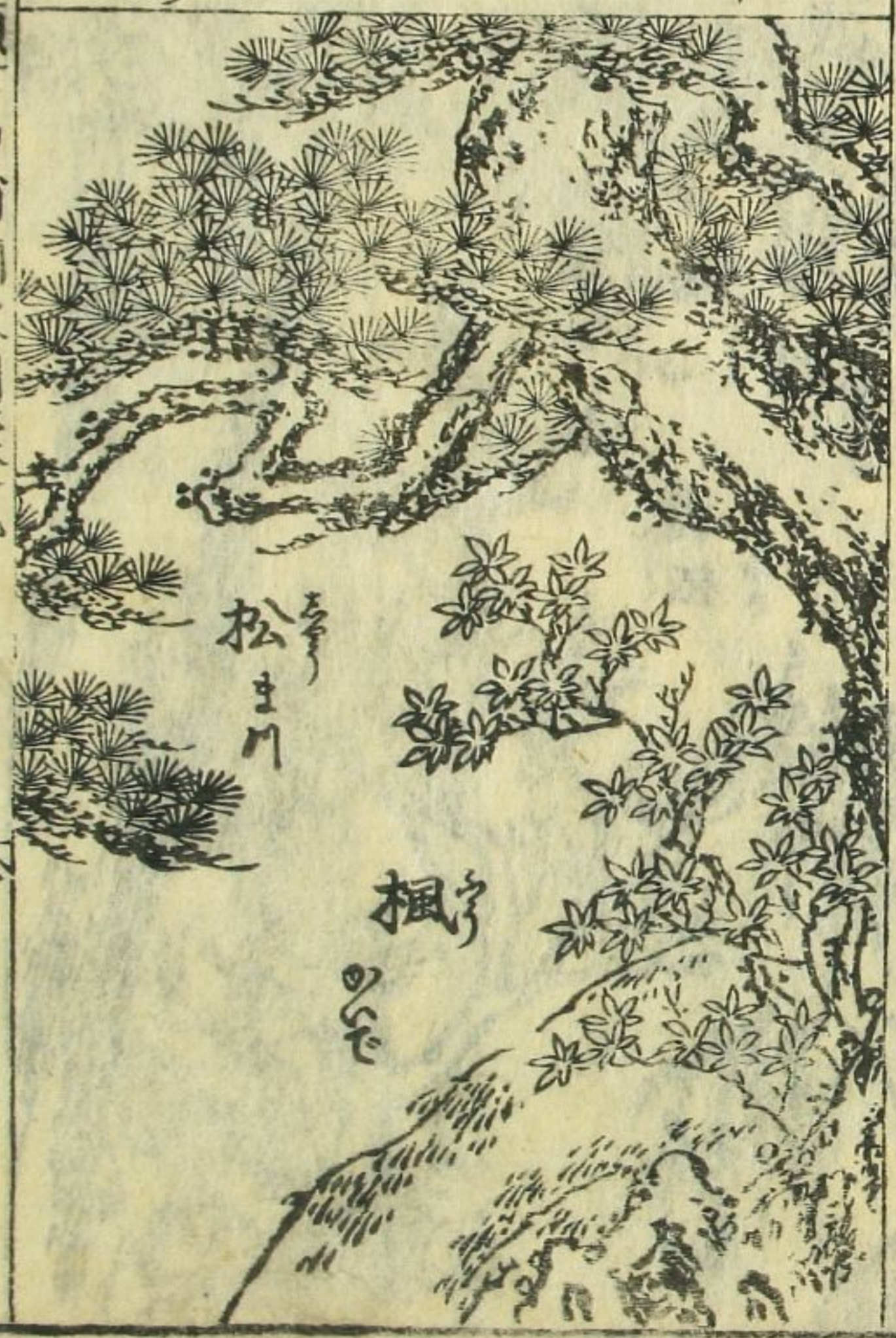
○楓ふうのく心こゝろでかりく

鶏冠けいかん木きも書かと

りく々くらの事ことがり

わくふくのく積つ木きふく

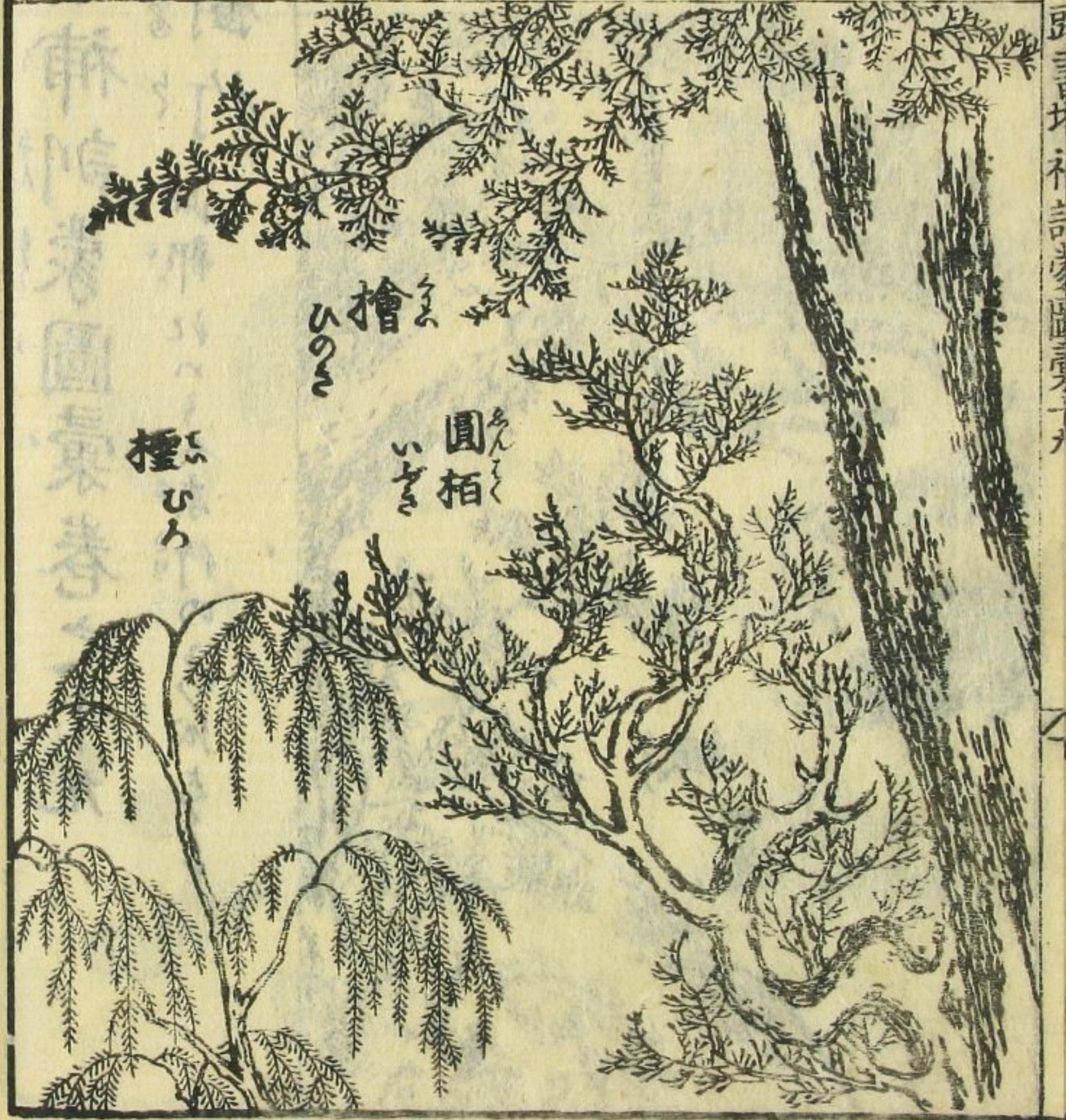
のく根ね中ちゆうにく



松しょう

楓ふう

○槽ひつぎの深山ふかやまのり
 て大木おほきとわの白しろ泉いづみ
 の本もと具ぐ曲まがわかし
 みまは木きと利りひて
 表あは上うへととも又また揮つらみ
 つらるるり
 ○圓ま拍ひの系けい拍ぱく中ちゆう
 て実みの松しょうふ似にらう
 尖とがつこころは似に似に
 葉は檢けんのよ敷しく
 色いろ黒くろく皮かわのし
 檜ひのき栢ぼく同どう
 ○種くさねの種くさね柳やなぎのり
 一名いちめい雨あめ師しとよみ
 皮かわのし



○杉しんの深山ふかやまのり
 とらりの大木おほきと
 かなる本もと立た直ちか小こ
 て枝えだ葉はちのり
 葉は七しち毒どく瘡そうと
 洗せんひ水みづに浸ひす
 て脚あし氣け腫しゅ痛いたむと
 治ちす
 ○仙せん栢ぼくの植うゑのて
 に似にたり実みの形かたち
 も瓜うり合あせらるる
 一名いちめい羅漢らかん松しょう

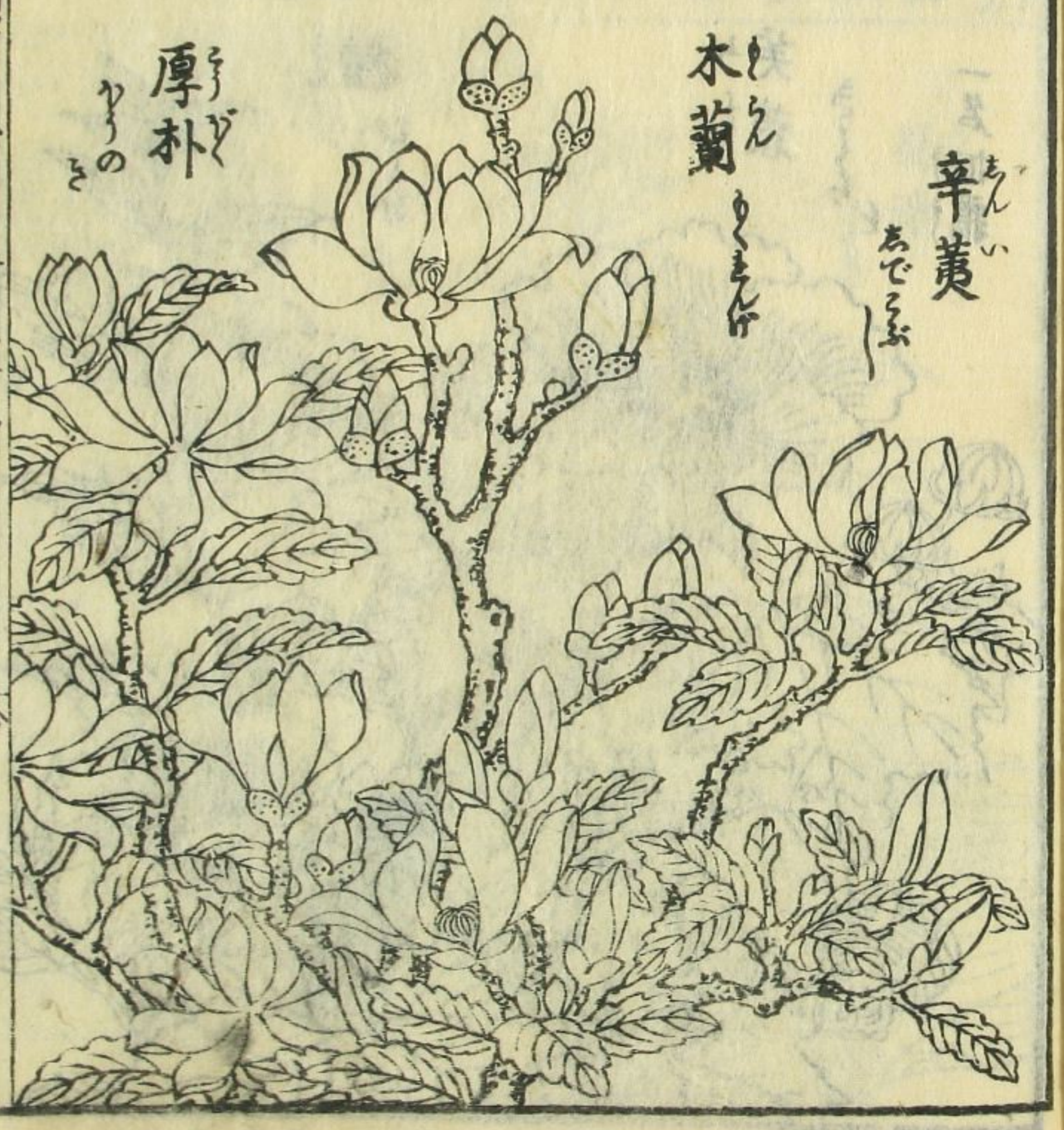


頁書増補川原園集

○躑躅の類多し
 紫花の二月の花
 さへ赤つと三月
 花さくまんのつと
 かへ重く花大ふ
 ちくさな事あり
 考の花濃つた
 英あつたつと
 花は四月花さく
 つとまんのつと
 と紫の花大ふ
 てかへ杜鵑花と
 又月花さく紅い
 又いねまの種



○辛黄の葉細
 長く花白く七
 少くあり花
 と本花さく
 長花さく
 ○本蘭の香蘭ふ
 似て花の蓮のごと
 くうら白くか
 ひつたるる花
 本蓮花といふ
 ○厚朴はま
 生四季あま
 ど花さかひま
 わつ一名榛



本草綱目卷之六十一

○槿ヒキリハ芙蓉ムスカシのヒ

名ヒキリ似ヒキリくヒキリ小ヒキリ

為ヒキリ紅ヒキリ白ヒキリのヒキリりヒキリ八ヒキリ重ヒキリ

ひヒキリ人ヒキリのヒキリりヒキリ七ヒキリ月ヒキリ花ヒキリ

一ヒキリ名ヒキリ日ヒキリ及ヒキリ

○芙蓉ムスカシハ水ムスカシ子ムスカシ

とムスカシんムスカシ紙ムスカシのムスカシ芙蓉ムスカシ

とムスカシんムスカシ荷ムスカシ花ムスカシのムスカシりムスカシ本ムスカシ

をムスカシ本ムスカシ芙蓉ムスカシとムスカシいムスカシふムスカシ

補ムスカシさムスカシんムスカシらムスカシとムスカシとムスカシいムスカシふムスカシ

七ムスカシ八ムスカシ月ムスカシ花ムスカシのムスカシりムスカシくムスカシ

七ムスカシ八ムスカシ月ムスカシ花ムスカシのムスカシりムスカシくムスカシ



槿ヒキリ

芙蓉ムスカシ

一名拒霜ヒキリ

○蜀漆シキハ秋シキ葉シキのシキ
花シキはシキ花シキ中シキにシキあシキ
きシキまシキるシキ根シキとシキ帝シキ
山シキのシキ二シキ月シキにシキまシキ
とシキるシキとシキ食シキまシキまシキとシキ七シキ
毒シキわシキりシキしシキもシキいシキ
○女シキ貞シキハ冬シキとシキあシキのシキ
てシキあシキいシキをシキまシキとシキうシキてシキかシキ
のシキ負シキはシキ比シキしシキてシキ名シキ
づシキくシキ一シキ名シキ蠟シキ樹シキ
○冬シキ青シキハ冬シキ月シキ青シキ
くシキみシキりシキあシキりシキうシキてシキ
冬シキ青シキとシキいシキるシキ人シキをシキあシキ
しシキまシキこシキいシキ



蜀漆シキ

冬青シキ

女貞シキ

本草綱目卷之六十一

○粉園の葉まらく
 花白くまらきと
 乃ごし、四月花さ
 く玉綉花も綉
 花、その花を
 茶の葉も粉園の
 香ら花かりてま
 り小てまら、三種
 ○紫陽の八月花
 さく粉園の八月
 花、その花を
 あり、その花を
 何、その花を
 木の長三葉、



粉園
 紫陽
 花の長三葉

○薜荔の名を
 本饅頭とす
 鬼饅頭とす秋
 の中わ
 ○花の花白く
 月よとくまら
 かる深まに月
 上焦の熱とす
 瘰と治す花
 薜荔



薜荔
 花

本草綱目

○錦帯花(四月)

花々揚櫃(池)

て花(葉)...

方(花)...

白(後)...

○楊櫃(葉)...

か(花)...

美(久)...

一(葉)...

空(疏)同

○棘(山野)...

こ(と)...

を(又)...

棘(刺)...

○角(楸)...

き(と)...

の(こ)...

と(あ)...

て(角)...

○木(楸)...

白(花)...

花(々)...



錦帯花

てまうらぎ

楊櫃

うらぎ



棘

角楸

わらわ

木楸



○櫻桐しんとう六月七月

英白えいぱく花はなは八九月

月につきに花はなはひびく

ひらりひらり真まのまはけ如ごとく

此この本のもとの毛けを

をを帯おびににつつる

○黄楊わうやうの葉はを

かかくくしし花はなを

をを夏なつ初はつめめのつ西せい季き

ああははははをを本もとのつ細こくくしし花はなを

くくしし花はなを



櫻桐しんとう

黄楊わうやう

此書は神言夢圖集

○衛矛ゑいぼうの三月

葉ははけはをを三さん四し尺せきをを三さん尺せきの

とと人ひとのつ葉はをを三さん尺せきの

葉はのつ花はなを

わわりりのつ花はなを

一名いちめい鬼おに笠かさ

○鐵蕉てつせうの葉はを

かかるるとと名な鳳ほう尾び蕉せう

ととかかつつ琉りゅう球きゅうととし

知ちるるとと番ばん焦せうととし

鐵蕉てつせうとと琉球りゅうきゅうとと番焦ばんせう



衛矛ゑいぼう

此書は神言夢圖集

○楠木ねぼハ葉ハ塩え敷子しよトシ小虫ちりアリ
 テ房むらトシむらトシ
 入倍とよトシとよトシ
 ふふトシ
 ○楮ちハ皮かわトシ製せい
 テ紙しトシしトシ
 かかトシしトシ
 構かトシしトシ
 七月しちがつ七日にち見童けんどう
 此葉このはハ詩しトシ
 書しよトシしトシ



○檫ちやハ葉はぬを
 小似ちよトシしトシ
 のきのきトシしトシ
 い本このトシしトシ
 ゆゆトシしトシ
 みみトシしトシ
 けけトシしトシ
 ○木樨もくしニ名な岩いん
 桂花けいけトシしトシ
 与よ桂けいトシしトシ
 かかトシしトシ
 香かうトシしトシ



本草綱目卷之九

○桐きり 冬ふゆ 花はな 白しろ 四月しがつ 花はな 白しろ 爲な 葉は 白しろ あり 指さし ち づ ち
に け ち ぬ 月つき 白しろ
○梧桐きり の 皮かわ 赤あか 毛け 毛け
ふ ー か ー ま ち
胡椒こしょう の 皮かわ 赤あか 毛け 毛け
に ち ち の ろ ち ち ち ち
ふ ー ち ち ち ち ち ち
○楸きり 同どう 補ほ
○楸きり の 葉は 白しろ 毛け 毛け



に 似に ち ち ち ち ち ち
又また 栗くり 小こ 粒つぶ と 栗くり
と 擦すり 栗くり 小こ 粒つぶ と 俗しやく
ふ ぢ ん ち ち ち ち ち ち
本ほん ち ち ち ち ち ち
て 葉は 上うへ ち ち ち ち
○榊きり の 一ひと 名な 榊きり 楸きり
と ち ち ち ち ち ち 楸きり
み ち ち ち ち ち ち 楸きり
ち ち ち ち ち ち 楸きり
本ほん ち ち ち ち ち ち 楸きり
に 似に ち ち ち ち ち ち



本草綱目卷之九

本草綱目卷之九

○藥の葉 吳葉黃
小柳の葉を煮て
と皮を白くし
黄多し 黄葉と
し 紫葉と
○紫葉の葉を
ひいて花を
きりて煮る
死秋葉のも実と
紫葉の葉
○石南の石の湯
に命を煮る
石南の石を
煮て石を
煮たお



藥

紫葉

石南

○狗骨 木の
へらして物の骨
乃如く物
ついでに
書かん
○瑞香の葉を
煮てその汁を
香のそく久黄白
ゆ
○接骨 小便と
通し水腫と治す
一名本筋薔薇
ワタシ豆の痛



狗骨

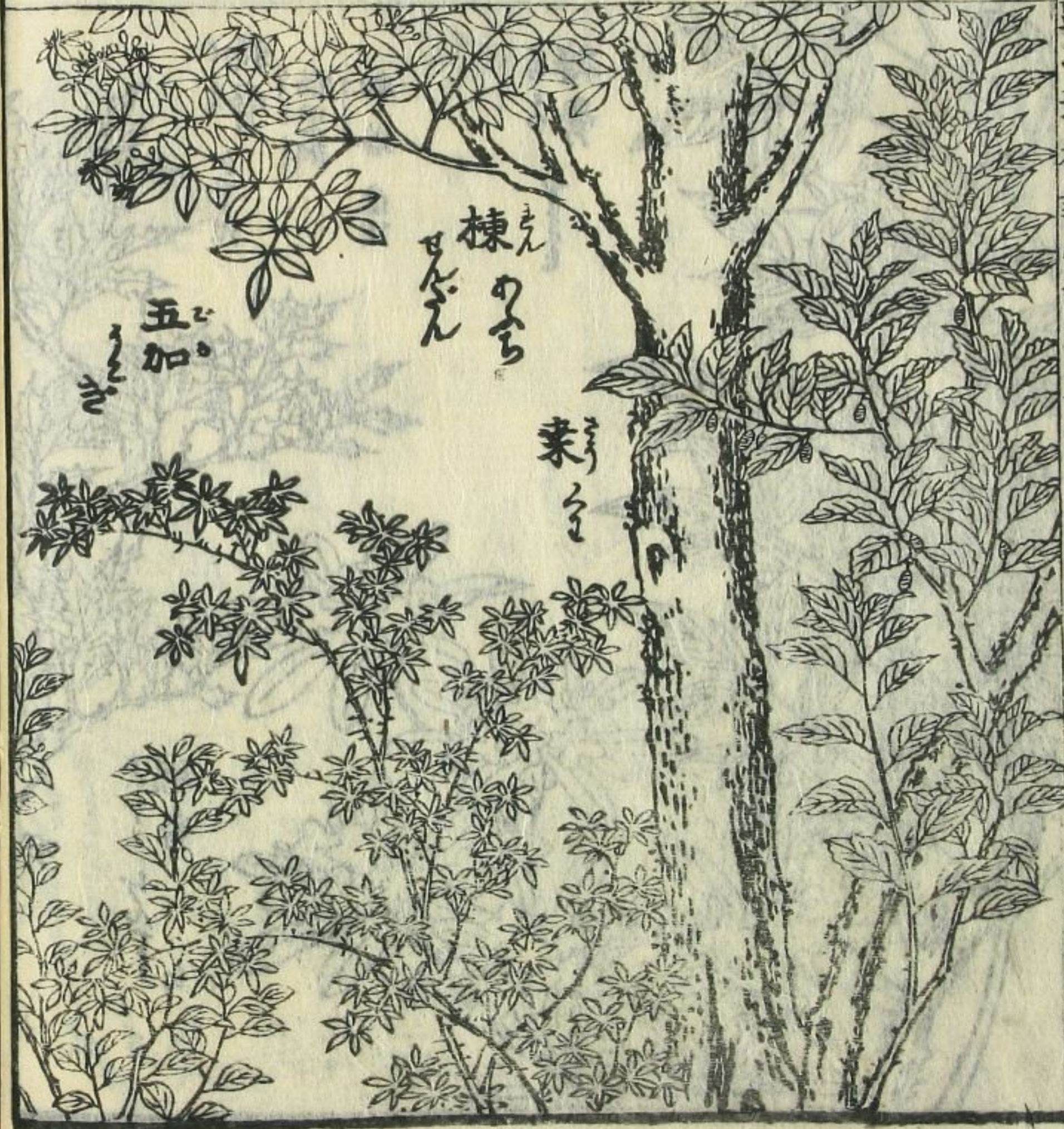
猫見刺
杜谷 並同

接骨

瑞香

本草綱目卷之九

○素一切の風氣
 と治し中気便
 動脈を舒し痰と
 消し胃氣の
 き食とを
 補棟の葉槐の
 く三四月花を
 煮ば久あり俗に
 せんさんとも云ふ
 金棟子と云ふ
 ○五加の葉はつ
 子てうへ皮膚
 の風湿とる五
 佳五花同



○枸杞の皮膚骨
 節の風氣を熱
 毒とるその肝
 心とる
 ○紫薇の花は
 かの七月さく百日
 花を補作する
 なる
 ○樟の楠の
 木を治す
 細く花を楠木
 び類なり大木
 かん救急とる
 其木石とる



○石種の葉槐に似
しつと得木古種並
同皮と春皮といふ

○合歡の五月より
花う、久紅白也
実ハ、こわりの葉

昼いふきて夜赤
むしつくと一名夜合
樹といふ

○榆赤白二種を
三月小葉とせと
しつと淡いといふ

一実と榆葉榆枝
といふ

○葉の本のえかり
類葉をを細葉
みらて落葉をを
病葉をを

○株のるせり
みつりかろを去に
入と根といひ去と出
た瓜格といふ

○葉の本のミウを
への幸あり拵不
あつびふ同

○芽の草のめざ
いつかひつ入萌芽
もつて入るめを

○葉の本のミウを
への幸あり拵不
あつびふ同



本草綱目卷之九



本草綱目卷之九 木部 楊柳

○楊の葉白青
赤の四種あるを白
楊の葉すらくま
楊の葉かぎり赤
楊の葉かぎり赤
楊の葉かぎり赤
楊の葉かぎり赤
楊の葉かぎり赤
楊の葉かぎり赤
○寄生の諸本
わり枝のる本はま
ふけり本はふ
本ふりて名を
又高本ともい
○柳の垂條は小



白楊

水楊

柳

楊の葉花白柳
葉の柳のすもかり
○柳の葉やそま
の葉少して久とて
ひりふ用ぬえを槐
さるて槐角といふ
○棕株同一名郎
來といふ葉はや
て物瓜みかたてふ
をいふこと
○梅檀の葉槐のご
とく皮青く黄檀



本草綱目卷之九 木部 楊柳

白檀 紫檀 赤檀

黒檀 のつらあや

伽羅 沈香 この木

朽てあかり

○皂莢の葉 槐

似たり 枝ふらふ

葉やもく 黄なる

花咲 皂角子 花書

○柴の小本 散財

かろと俗ふを

○薪の粗と薪と云

こぼりかろふは

こつふ又つもぎ

○竹の六十種あり

六十のゆて一度

花をたまたのり 花

毛と毛 移んをへ

つらたかきめなり

といふ 指をそれし又

せむ

○皆の筍同

食とまの 膈と刺

痰と消し 胃と

やふし 水道と通

豆書地神訓家園集



皂莢

槐

棕

梅檀

伽羅



柴

薪

頭書地神訓家園集

一節とす

○篠の竹より竹

の根より竹より小

と竹より

○箬の山小竹より

さきより葉は細て長

二尺のり色は葉にて

緑とついで弱同

○篋の竹の苗より

たけひともいふ

○蘆竹の葉大なり

て葉小似るる



秋竹ともいふ

○樓竹の葉大なり

葉は細小似るる

杖の根は竹より

○投竹の竹より

力や細竹ともいふ

竹とも又相思竹も

いふなり

○此竹の根竹より

の葉のきこたぬ

○此竹の葉のきこたぬ

のりては竹より



篋竹 たけひともいふ

蘆竹 きこたぬ

みどりさき

○無節竹さき

のらういもちゆか

竹さき

○竹さきさき

つたのまかり

竹さき

志移んきて竹の病

かるまの甲に糸

のこしたわう

○篠竹のさき

又竹はとも皆はと

もつ

○筒たけのほ

筒同竹節たけ

のふしかり

○蔑たけのわを

俗ふしふら

養竹同

○幹木の心

俗ふしふら

○根木の根

根同本とも

○枝木のさき

搜竹

ちのろ

扶竹

紫竹

ひんげ

だり

さき

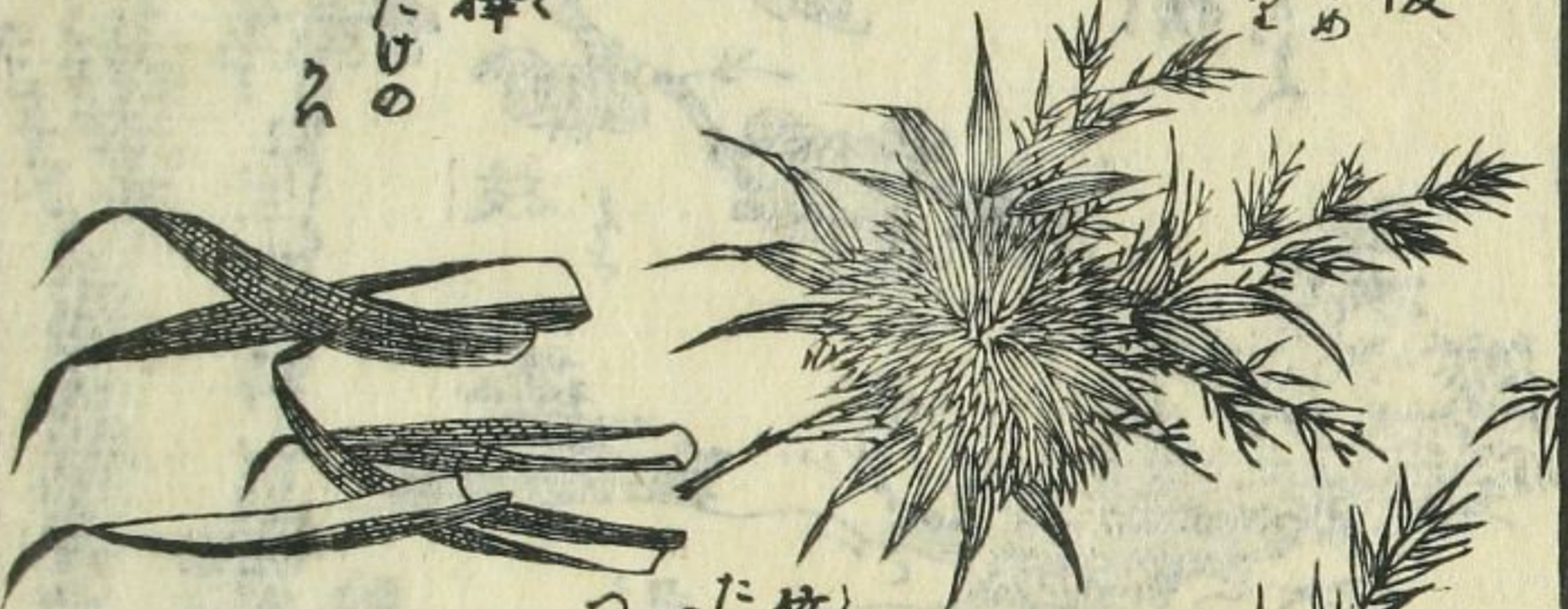


篠

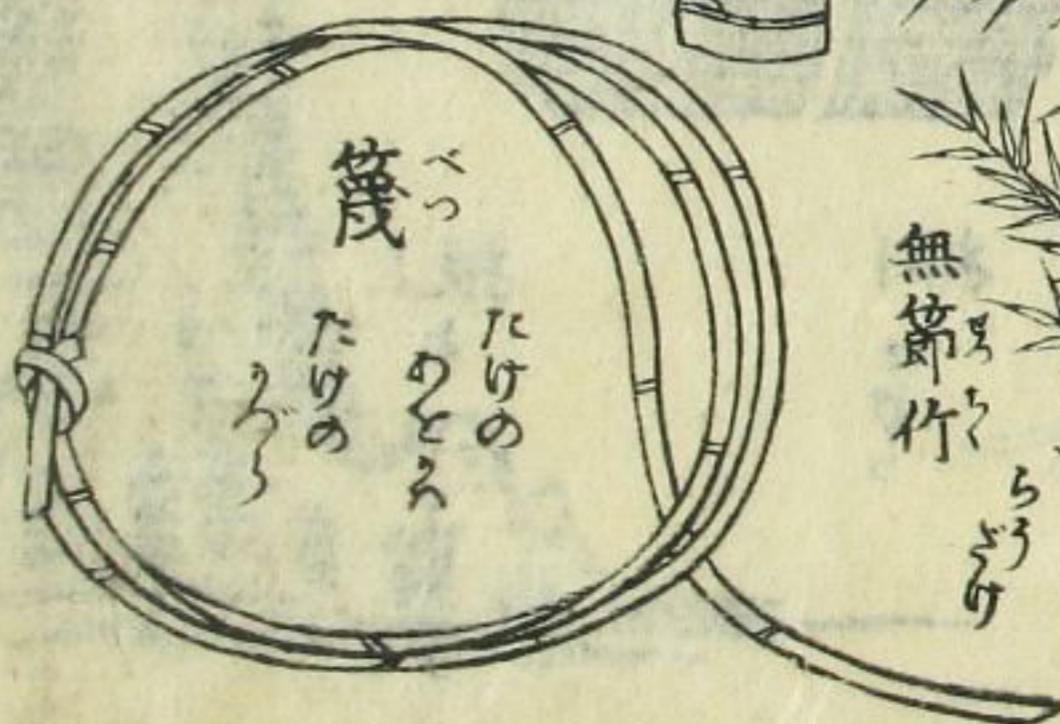
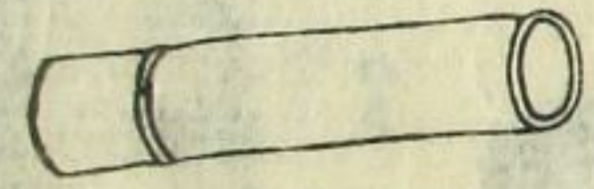
さき

篠

たけの



筒



篋

たけの
のこえ
たけの
さき

無節竹



本草綱目竹部

本草綱目卷之九

柯目カヤカノカノカ

條カノカノカノカ

梢カノカノカ

梢カノカノカ

抄カノカノカ

炭カノカノカ

烏銀カノカノカ

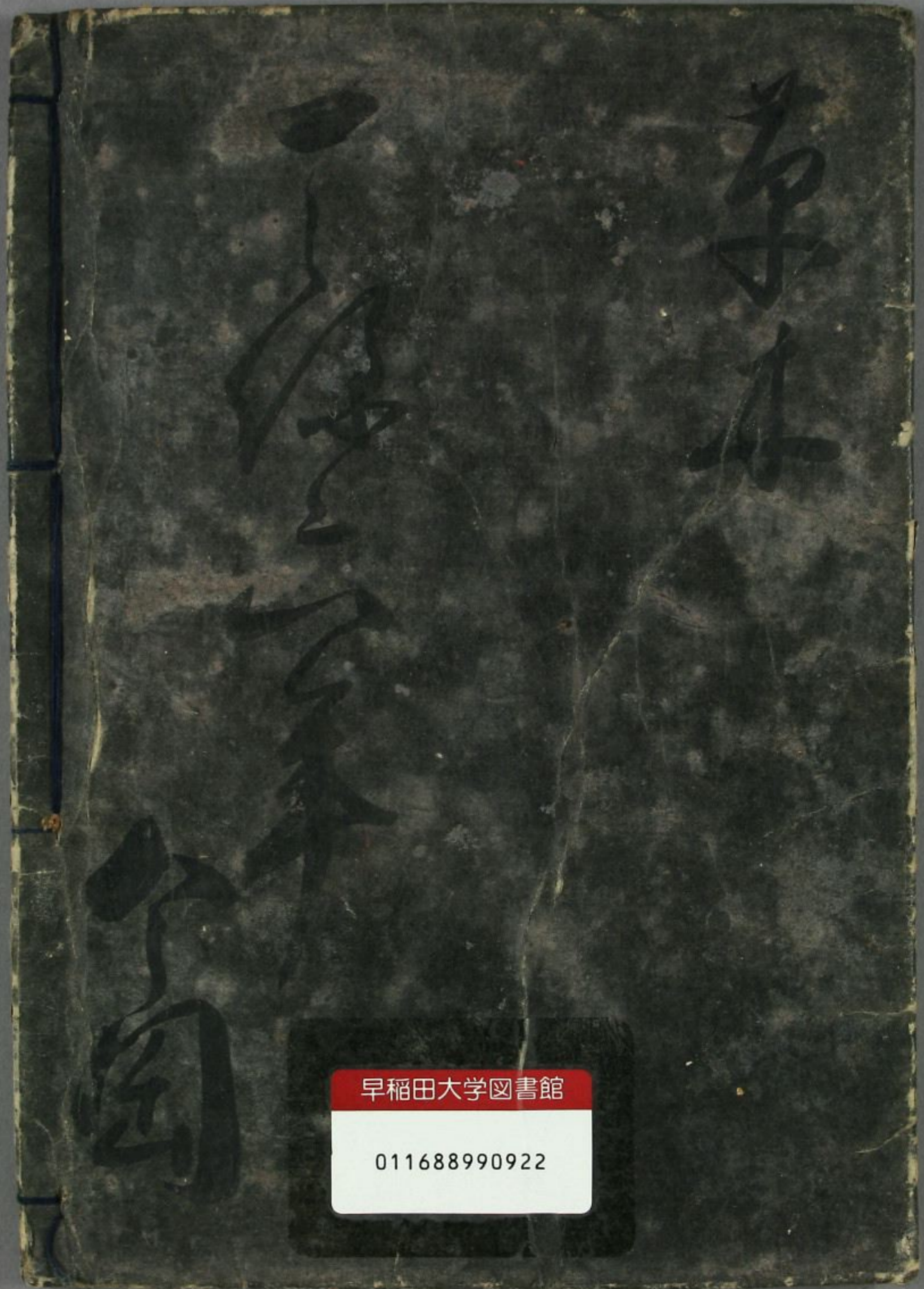
柿カノカノカ

○柿カノカノカ

鋸末カノカノカ

かっくカノカノカ





芥子園

畫傳

早稲田大学図書館

011688990922